

保育園（5歳児）・小学校第1学年連携 学校裁量の時間学習活動案

1 活動名 なかよし大作戦

2 活動のねらい

- 児童の豊かな人間関係づくり実現の基盤を培うことをねらいとする。また、「小一プロブレム」の解消のために、園児と児童の交流活動を通して、園児の戸惑いや不安を和らげる活動とする。
 - ・ 園児との交流活動を通して、年上であるという自覚のもと年下の人に対する思いやりや優しさをもって、行動することができる。 (1年生)
 - ・ 1年生との遊びを通して、1年生や小学校に対して身近に感じたり、就学前の期待を膨らましたりすることができる。 (5歳児)

3 こんな児童・園児だから・・・

- △小学校1年〇組の児童は、男子〇名女子〇名の計〇名である。異学年の交流について、児童は、幼稚園・保育園の時に年少組の着替えを手伝ったり、一緒に遊んであげたりといった、年上としてお世話をする経験もしている。そして入学後は、1学期に、歓迎遠足やチャレンジ集会・折り鶴折りを教えてもらうといった6年生との交流の中で、「優しくしてもらえたよ。」と嬉しそうに話す姿や6年生に教わったルールを守ろうとする姿が見られた。また、生活科では、2年生に学校案内をしてもらい、「お兄さんに教えてもらったよ。」と喜びを感じている姿が見られた。

入学後の年下の子とのかかわりについては、年下の兄弟姉妹がいる児童以外は極めて少ない。しかしながら、6年生や2年生との交流を経験し、「自分たちも年下の子と優しく接したり、一緒に遊んであげたりしたい。」という思いはある。今回の園児との交流活動を通して、年下の子に対して思いやりをもって接していく態度を育てていきたい。

- △保育園の〇〇〇〇組（5歳児）の園児は、〇名である。今回の交流活動にあたり、園児の実態を知るためにアンケートを行った。その結果、園児は小学校に対して、楽しみにしていることとして、

「はやく国語や算数の勉強をしたい。」

「どんなお友達がいるかな。どんな先生がいるのかな。」

などが挙げられ、小学校に入学することに対して大変期待は大きい。その反面、

「小学校の中で迷ってしまったら、どうしよう。小学校は大きいのかな。」

「新しいお友達はできるかな。」

などの心配や不安があることも分かった。本園では、夏と冬の年2回、卒園した小学生を保育園に招待し、園児と交流する機会を作っている。しかし、日頃近所で小学生と一緒に遊ぶなどの経験は少なく、年上の兄弟姉妹がいる園児以外は、小学校の児童とかかわる機会は少ない。

4 こんな交流活動の工夫で・・・

園児と児童のかかわりを深めるために以下の2つの交流活動の工夫を考える。

まず1つ目は、ペアを組ませ2回の交流活動を仕組むことである。ペアを組ませることによって、お互いにかかわる相手がはっきりする。園児にとっては、何か困ったときに尋ねる対象児童が分かっていることは安心できることであろう。児童にとっても、ルールを教えたり、活動するときの動きを指示したりするときに対象園児が分かっていることで、大変かかわりやすくなる考える。

具体的には、1回目の交流活動は、出会いの交流である。園児と児童が自己紹介や簡単なゲームを通して、顔馴染みになることが目的である。顔馴染みになることは、園児の安堵感が生じることにつながる。1回目の交流活動が終わったあと、園児と交流して良かったこと・困ったこと等を振り返らせ、園児と接するとき気をつければ良いことを話し合わせる。そして、2回目の交流活動に向けて、園児に喜んでもらえることや分かりやすくする事を意識して準備をする中で、相手に対して思いやり、優しい心を育てている。2回目の交流は、かかわりを深める交流である。相手意識を持って行う交流活動を通して、園児にとっては安心して楽しめること、児童にとっては園児により優しい態度で接することができるようになることが目的である。1回目の交流では、表面的なかかわりしかできなかつた児童や親しくなるまでに至らなかつた児童にとって

も、2回の交流は大変意義があると考えます。

次に2つ目の活動の工夫は、活動の内容を2回目の交流活動でペットボトルを使ったボーリングゲームをすることである。このボーリングゲームには、以下の6点のよさが見られ、園児と児童のかかわりがより生じやすいものであると考える。

- ・ ゲームを進めるに当たって、ピンを並べる、次の人にボールをわたす、倒れたピンを数えるなどの役割を持たせることができる。
- ・ ペアを組んでの活動がしやすい。
- ・ 賞品がもらえるための目標本数を決めるなどルールを工夫することができる。
- ・ ピンを倒すという単純なルールで、園児にも分かりやすい。
- ・ ペットボトルは、児童にとって身近な材料である。
- ・ ピンに飾りをつけたり、絵を描いたりして、自分たちなりの工夫をすることができる。

5 活動計画 (全4時間)

配時	主な活動内容	教師の支援
国語	1. 招待状をつくる。	○ 自分たちが幼稚園や保育園に通っていた時のこと（期待していたことや不安に思っていたことなど）を想起させる。園児が小学校に対して安心してもらえることが交流の一つの目的であることを伝える。
①	2. 年長組と1年生の顔合わせをする。 (1回目交流) ・ 自己紹介 ・ ジャンケン列車 ・ リレー遊び (ボール運びリレー)	○ 事前に保育園児と交流することを伝えておき、意欲を持たせておく。 ○ 2回目の交流と同じ組み合わせになるよう、グルーピングしておく。 ○ グループを意識したゲームをする。園児にも分かりやすいルールにする。 ○ 交流の振り返り (良かったこと・困ったこと) をしておく。
②	3. 交流の準備をする。 ○ ボーリングゲームに必要な道具の準備をする。 ・ ボーリングのピン ・ 賞品 (メダル) ○ ルール説明の練習をする。 ○ 園児との接し方を考える。 ○ 自分たちもやってみる。	○ 園児に喜んでもらえることや分かりやすくする事を意識して準備できるようにする。 ・ ボーリングのピンの飾り ・ 賞品づくり ・ ルールの説明の仕方 ○ 園児に優しい言葉を使うこと・ルールを分かるように伝えることなどの点を意識させる。 ○ 自分たちも実際にすることで、ルールを把握したり、改善したり出来るようにする。
① (本時)	4. ボーリングゲームを通して、交流する。(2回目交流) ○ なべなべそこぬけをする。 ○ ボーリングゲームをする。 ○ 活動をふりかえる。	○ お互いが慣れ、和やかな雰囲気にするため、ペアで出来る体を使った遊びをする。 ○ ボーリングゲームの準備はグループごとに場所を決めておき事前しておく。 ○ 安全に遊んでいるか、楽しく活動しているかを把握しながら、全体を見回る。
国語	5. 手紙を書く。	○ 交流をして、うれしかったことや楽しかった気持ちを伝えさせる。 ○ 同じペアの園児に宛てて書かせる。

7 本時の目標

〈1年生〉

- 園児のことを考えて、ゲームの仕方を教えたり、ゲームの進行をリードしたりすることで、自分が年上であるという自覚し優しく接することができる。

〈5歳児〉

- 1年生と一緒にボーリングゲームで楽しく遊ぶことができる。

8 本時学習の考え方

本学級の児童と△保育園の園児(5歳児)は、本時まで1度、交流を行っている。1回目の交流では、ペアの顔合わせをしてお互いに自己紹介をした後、一緒にジャンケン列車やボール運びリレーを楽しんだ。はじめは、お互いに緊張していたが、交流の終わりの頃には、だんだん慣れてきて表情も和らいでいた。交流後の子どもたちの感想にも、「はじめはどきどきしていたけど、だんだんなれてきた。」「あえてうれしかった。」「たのしかった。またあいたい。」などと書かれていて、交流に対して満足している様子であった。しかし、初めて会ったということもあり、一緒に遊ぶ、自分たちが楽しむことに夢中になり、年上としての行動は少なかった。今回の交流では、自分たちは年上であるという意識を持たせることをねらいとしたい。

本時では、園児3名、児童4名のグループで、ペットボトルを使ったボーリングゲームをする。その際、前回に組んだペア同士と一緒に活動できるようにする。

今回の交流では、園児にとって、1回目の交流で仲良くなった児童と一緒に楽しくボーリングゲームをすることをねらいとしている。また、児童にとっては、自分たちが中心となりボーリングゲームを進めることで、年上である意識をもたせ、園児に対して優しく接することができればと考えている。

そこで、本時では、まず、はじめに1回目の交流で楽しく活動した写真を提示して想起させ、1回目の交流で行ったじゃんけん列車を一緒にする。1回目から2回目の交流が2週間空いているため、少し緊張した雰囲気になると考えられる。スムーズに交流活動ができるようにするために、音楽を流しながら楽しい雰囲気を作り、体と心をほぐしていきたい。

次に、めあてを確認する。意欲を高めるため、準備を思いやりや優しい心に裏付けされて頑張っていた児童の言葉や姿を挙げて賞賛する。

そして、児童が進行をリードしながら、園児と一緒にボーリングゲームを楽しみ交流を深める活動にはいる。ボーリングゲームを始める際、園児に分かりやすいように実際にボーリングをしながら説明させる。ゲームをする際には、「ボールを準備する」「倒れたピンを取り除く」「次のチャレンジのために10本のピンを立てる」といった役割を持たせる。常にペアの園児・児童で同じ役割をさせることによって、児童が園児にやり方を教えてあげたり、一緒に喜んだりするかわりが生じるであろう。楽しくボーリングゲームをする中で、園児にボールの転がし方を教えたり、もっと上手に出来るよう励ましたり、応援したりして、園児のことを考えて優しく接することができる児童を積極的に褒めていく。園児と一緒に活動することを通して、園児が楽しんでくれることを、喜びとして感じるようにしたいと考えている。

学習の最後に、自分のめあて確認をし、振り返らせ、達成したかどうかを挙手させる。そして、ボーリングゲームの活動を行った感想を園児・児童それぞれ数名発表させ教師がプラスに評価し、本時のねらいが達成した充実感を味わせたい。

9 準備

教師：ボール8個、ホワイトボード、CDデッキ、CD、マイク、プラカード

児童：ボーリングのピン(ペットボトルでつくったもの)グループにつき各10本、

賞品(メダル)、雑巾

10 本時の展開

場面	子どもの活動	教師の支援	保育士の支援
7	1. 「じゃんけん列車」を一緒にすることにより、前回の活動を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目の交流の場面を写真を使って想起させる。 ○ 活動しやすいように、CDを準備しておき曲を流す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士も一緒にゲームに参加し、楽しい雰囲気を進めていく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>みんなでたのしくボーリングゲームをしよう。</p> </div>			
3	2. 本時のめあてを確認し、活動の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ また、準備を頑張っていた児童の様子を挙げ、賞賛し意欲をもたせる。 	
25	3. ボーリングゲームをする。 ①ルールを説明する。 ②グループに分かれて練習する。 ③ゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の場で実際にボーリングをしながらルール説明をさせる。 ○ グループは、園児3人、児童4人の7人で構成しておく。 ○ ルールが守られているか、安全に遊んでいるか、全体を把握する。 ○ 困っている園児、1年生がいないか気を配る。 ○ 園児にやり方を教えてやったり、励ましたりしている児童を褒める。 ○ 児童が全ての役割をしまわらず園児もいっしょに準備や片付けなどをしてもらうよう、児童には事前に話しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸惑っている園児がいたら、楽しく参加できるよう声かけをする。 ○ 保育士も一緒にゲームに参加し、楽しい雰囲気を進めていく。 ○ うまくピンを倒せた園児を褒め、自信へとつなげていく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ボーリングゲームのルール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピンは、10本置いておく。 2. 1チャレンジにつき、3回ボールを転がす。 (1年生は、2回) 3. 3回で倒したピンの数を合計する。 4. 5本以上倒したら、メダルをゲットできる。 5. 繰り返しチャレンジする。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ゲームを進めるための役割</p> <p>A ボールをころがす。 B ボールをとり、次の人にわたす。 C 倒れたピンを取り除いたり、立てたりする。 順番に交代しながら行う。</p> </div>	
5	4. 感想を発表し学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しかったことを振り返らせ、園児・児童を賞賛する。 ○ 自分のめあてを振り返らせ、達成したかどうかを挙手させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児に楽しかったことを尋ねる。
5	5. 保育士の話を聞く。 6. 終わりのあいさつをした後、握手してさよならをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育士の話を聞く態度を作らせる。 ○ お互いに気持ちのよいあいさつをして最後まで楽しい思いが出来るようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の交流の良かった所を話し、充実感を味わわせる。 ○ グループの1年生と握手できているかを見ておく。

11 板書計画

なかよしだいさくせん

めあて みんなでたのしくボーリングゲームをしよう。

1回目の 交流活動の写 真	ルール ○ ほいくえんのひとは 3かいころがす。 (1ねんせいはいは2かい) ○ 5ほんたおしたらメダル をもらえる。
1回目の 交流活動の写 真	

12 会場図

